



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
1月31日
発行

第121回

「株式市場見通し」

～ポイントは米中間選挙～



初めに

世界的な株式市場の混乱が続いています。今回は今後の株式市場の見通しについてお話しします。

原因はインフレと金融引き締め

株安の理由は、インフレと今後予想される各国中銀による金融引き締めです。インフレを抑えるためにFRBが金融引き締めに着手しましたが、それがきっかけとなり世界的に株価が急落しました。ウクライナ問題を理由にする向きもありますが、自分は関係ないと見ています。

ポイントは中間選挙

ここからは今後の株式市場の見通しについて考えます。自分がポイントと見ているのは本年11月8日に予定されている米国の中間選挙です。中間選挙は大統領選に次いで重要と位置づけられる選挙です。支持率が低迷し政策を実現出来ないバイデン大統領にとって、勝利を逃すことは許されません。現在米国ではインフレが大きな問題となっています。これを上手く解決できれば中間選挙勝利の道が見えてきます。インフレで打撃を被るのがバイデン氏の支持基盤、民主党急進左派とあれば尚更でしょう。これがバイデン氏の狙いだと思います。

FRBはどう動く

インフレの抑え込みに成功しても、選挙直前では遅すぎます。おそらくパウエル氏は、7-9月中にはインフレ沈静化の目処を立て中間選挙に間に合わせる、そのように考えていると思います。その間株式市場は頭の重い動きを続けることにはなりますが、インフレ沈静化が見えてくれば上昇に転じることになるでしょう。

余談ですが弊社では毎年、年末または年始に「びっくり10大予想」を発表していますが、今年の予想には「ファイヤーファイターパウエル、果敢な金融引き締めで早期のインフレ沈静に成功」が入っています。弊社のためにも是非成功して欲しいと思っています。

景気への影響は限定的

心配されるのはこの金融引き締めにより景気が悪化、それがまた株式市場の悪材料になることです。その可能性はありますが小さいと見ています。理由は世界経済が強いからです。

インフレ沈静化に伴って上昇へ

コロナやインフレのために苦境に立たされている業界もありますが、全体として世界経済は好調を持続しています。その原動力は技術革新です。次から次へ魅力的な商品やサービスが生まれ出される状況が続いています。宇宙旅行は手に届くものとなり、また最近では仮想空間メタバースが話題を呼んでいます。課題が多々あることも経済が今後も強いと思う理由です。その代表が温暖化対策です。そのために多額の資金が必要になりますが、こうした資金も経済を支えることとなります。これが世界経済を懸念する必要は小さいと思う理由です。

以上を踏まえての結論ですが、株式市場は当面頭の重い動きを続けると思っていますが、世界経済が好調が続いていることもあり、大崩れすることはなくインフレの沈静化に伴って上昇に転じると見ています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。